

氏 名	わ だ あき ひと 和 田 章 仁
学位(専攻分野)	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	博 甲 第 108 号
学位授与の日付	平 成 8 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研 究 科・専 攻	工芸科学研究科機能科学専攻
学 位 論 文 題 目	散策行動からみた散策空間の様態と形成に関する研究
審 査 委 員	(主査) 教 授 材 野 博 司 教 授 池 田 有 隣 教 授 古 山 正 雄

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は真に生活の豊かさを享受することができるとともに、都市環境のアメニティ形成に貢献する散策空間づくりのあり方を探ろうとするものであり、散策の基本となる散策行動に着目して、散策対象空間との関わりの中でその実態を把握し、その分析を通して散策空間形成の方向を探ろうとする基礎研究である。

既往の研究は、歩行空間に関する交通工学からのアプローチと、散策空間に関する部分的研究が殆どであるが、本研究では複眼的視野から分析することによりその実態を立体像として把握し、散策空間の魅力の分析や空間形成要素の評価を行うことにより、散策空間創出の基準づくりを行うための資料に供することを目指したものである。

本論文は 9 章からなり、第一章は研究の目的と方法、第二、第三、第四章は第五章以下の章の前提となるものであり、第五章から第七章が主論で、第九章はまとめと提案を含む結論である。

第二章、第三章は散策行動の特性を探ることにより、空間ブロックとの関連で散策タイプを抽出し、それを日常的行動と非日常的行動との比較から類型化を行い、第四章では全国の都市を 4 分類しながら、歩行者空間整備と散策行動とのギャップを比較考察している。第五章においては、京都市と大阪市の都市構造の特徴による両市民の散策行動の相違と、散策そのものが有する特性について検討し、散策行動者の散策割合や散策先については異なっているものの、両市民の散策行動は散策タイプ別の散策行動を含めて概ね類似の特性を有していることを明らかにした。第六章においては、散策行動と散策空間との関わりを、散策地およびその魅力により分析するため、散策の魅力を数量化理論により、散策行動に起因する散策地や散策理由などと、散策空間を形成する魅力の型との関係を把握している。

第七、第八章において、各散策地における散策行動実態等を通して、散策状況および散策空間の快適性を把握するため、京都市民を対象とした散策調査の中から得られた代表的な 9 箇所の散策地に着目し、散策状況および散策ルートを空間評価として介入させることによって、散策行動パターンと散策空間評価との間には密接な関係があることを明らかにし、散策空間の快適性および散策空間への誘導要因を解明する糸口を見い出した。

第九章においては、快適な散策空間を形成する要素の評価を通して、散策空間創出の基準づくりを基本的方向と具体的方策の二側面から論じている。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

論文審査申請者和田章仁君の研究は、従来の交通工学が車中心の都市交通研究から、歩行者にも安全で

快適な都市空間研究をも包含する研究へとその方向を変えつつある中で、歩行者空間で重要なウエイトを占めるとともに、その比率を増大させると予測されうる散策空間について、散策行動との関連において研究したものである。要旨でも先記したが、散策空間に関する既往の研究は、土木工学での一部と都市計画学の断片的側面で研究されているものの、散策空間そのものを都市計画学および都市デザイン学的に取り扱うことは少なく、本研究は時宜を得ているとともに、都市空間そのものの質的側面を向上させる点からも重要な研究テーマであると考えられる。そのようなテーマを、一方で全国的な都市レベルでの豊富な資料による比較を行いつつ、その中で伝統的都市である京都と、近代都市化した大阪という典型的二都市での調査を通して散策実態を明らかにするとともに、典型的モデルゾーンにおいて、散策行動様態に迫るなど総合性を有しつつも一貫性のある研究を行っている。また、他方で、散策空間の潜在評価のベースとなる散策行動について、その行動軌跡パターン化も含めて散策空間との連関で O.D. 手法的で探っており、この縦系のおよび横系の両面からの研究の複合過程から都市における散策空間のあり様を論じる等、説得力のある論文となっている。このように、本研究はテーマの持つ先見性と方法の固有性を第一評価対象として、かつ散策空間研究を都市環境計画における高熟度の研究へと移行させる手がかりを与えている点をさらなる評価対象としてとらえることができる。

本論文は、「観光都市京都における散策空間の整備」（1995. 8、土木学会、土木計画学研究・論文集、No. 12）、「散策行動からみた散策空間の評価に関する考察」（1995. 11、交通工学研究発表会論文報告集、No. 15）、「散策行動からみた歩行者空間の整備課題」（1995. 12、大阪交通科学研究会、会誌論文、Vol. 24 の3編のレフェリー付きの論文と、目下提出中の「散策の魅力からみた散策空間の形成に関する考察」（都市計画学会、一般研究論文、レフェリー付き）および数編の参考論文を基本とし、かつ、申請者が博士課程に入る以前から取り組んできた研究成果を補足的に組み込んだものである。

よって、本審査委員会は本論文が本学の学位授与に十分に値すると結論した。